

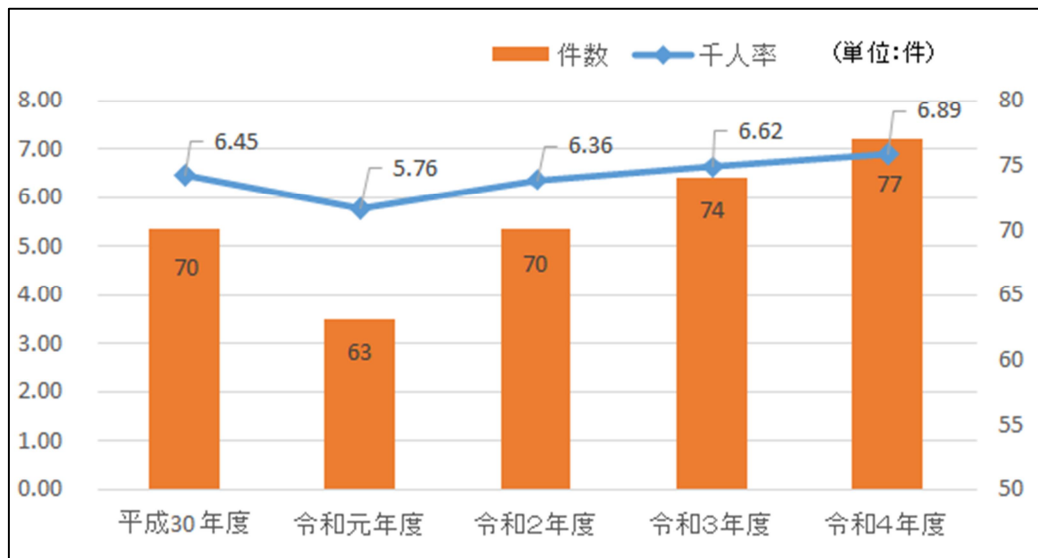
## 職種別 災害発生状況

## 1 義務教育学校職員

### (1) 過去 5 年の公務災害発生件数の推移〔統計表 表 3、表 4〕

令和元年度に若干減少したものの、その後は、増加傾向にあり、令和 4 年度には 77 件となった。  
千人率の推移においても同様の傾向であり、令和 4 年度には 6.89 件となった。

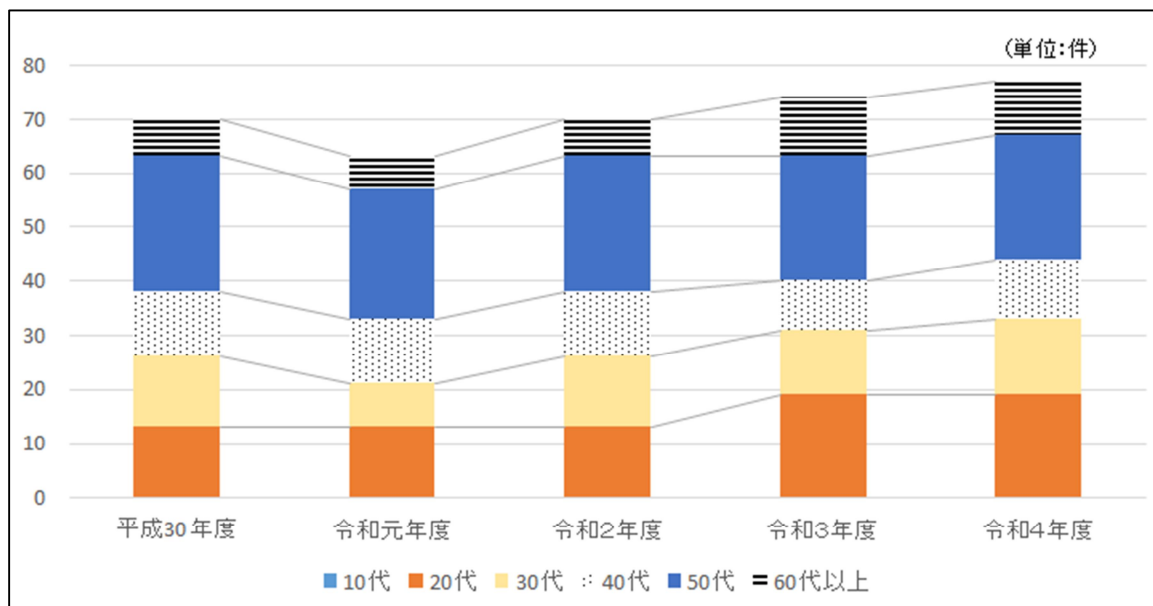
図 9 発生件数と千人率の推移（義務教育）



### (2) 年代別発生状況〔統計表 表 15〕

令和元年度に 30 代の被災件数が減少しており、令和 3 年度からは 20 代の被災が増加している。  
50 代の被災件数は、いずれの年度も、他の年代に比べ、最も多い状態が継続している。

図 10 年代別発生件数（年次推移、義務教育）

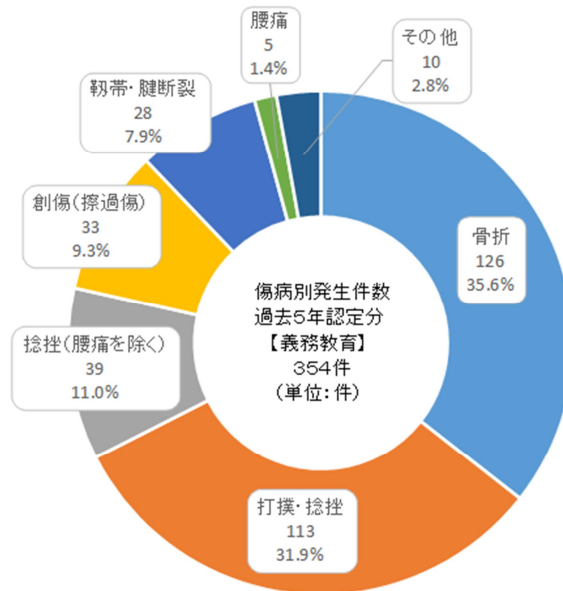


(3) 傷病別発生状況〔統計表 表 16、表 17〕

「骨折」が126件で最も多く、次に「打撲・挫傷」が113件となっている。いずれも過去5年の上位に連続して入っており、これらの二つで全体の6割以上を占めている。

「骨折」は、体育の授業中や児童との遊びの最中に多く発生しているほか、掲示物を掲示するために高い場所に上がった際に、バランスを崩して落下した事例も多い。

図 11 傷病別発生件数（過去5年認定分、義務教育）



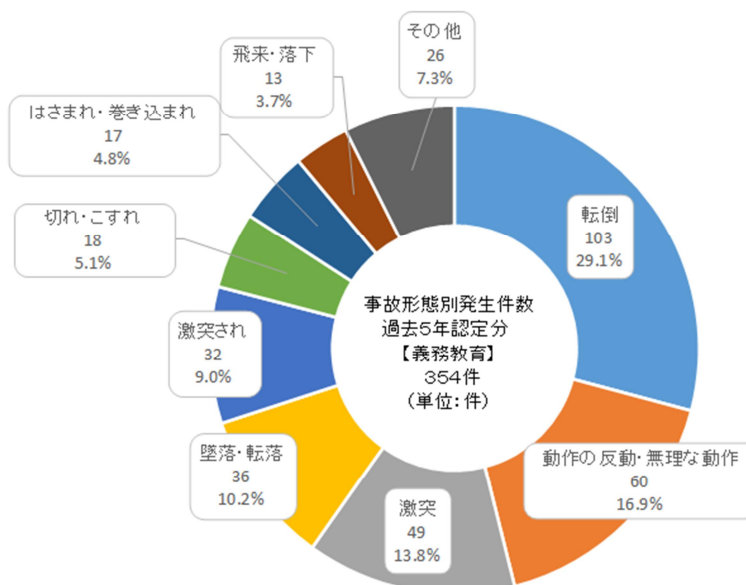
(4) 事故形態別発生状況〔統計表 表 18、表 19〕

「転倒」が103件で最も多く、次に「動作の反動・無理な動作」が60件となっており、いずれも過去5年の上位に連続して入っている。

「転倒」は校内移動中に急いで移動する際に多く発生しており、体育の授業中の発生も多い。

「動作の反動・無理な動作」は体育の授業などの運動中に発生している。

図 12 事故形態別発生件数（過去5年認定分、義務教育）

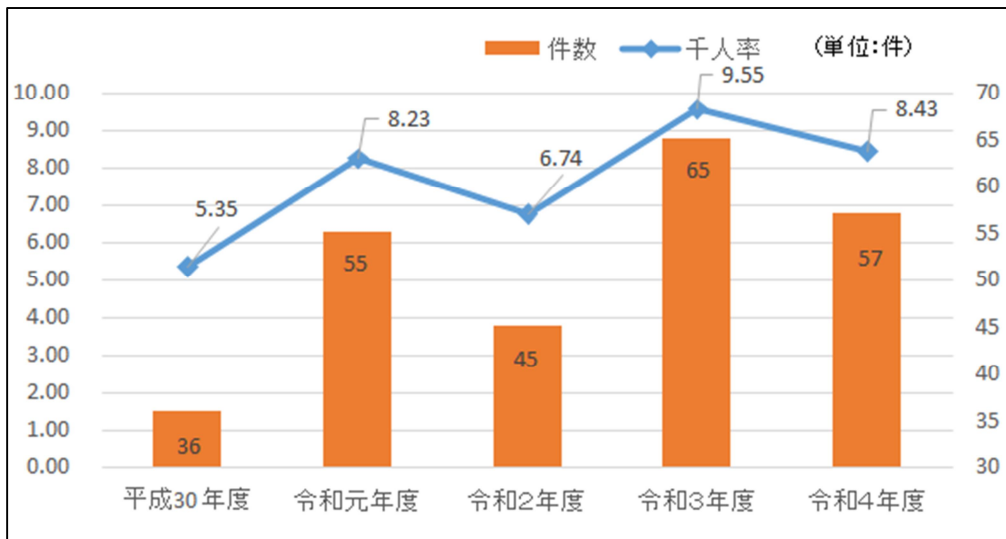


## 2 義務教育学校職員以外の教育職員

### (1) 過去 5 年の公務災害発生件数の推移〔統計表 表 3、表 4〕

毎年増減があり、平成 30 年度の 36 件が最も少なく、令和 3 年度の 65 件が最も多かった。千人率の推移においても同様の傾向である。

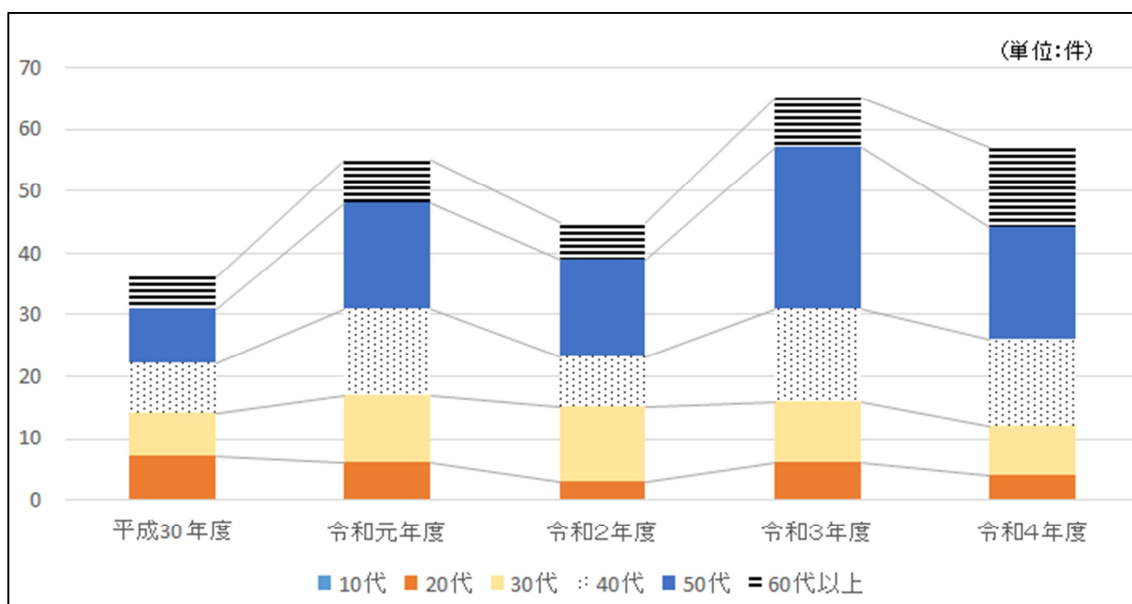
図 13 発生件数と千人率の推移（義務その他）



### (2) 年代別発生状況〔統計表 表 20〕

令和 2 年度に 40 代の被災件数が減少しており、令和 3 年度には 50 代の被災が増加している。50 代の被災件数は、いずれの年度においても、他の年代に比べ、最も多い状態が継続している。

図 14 年代別発生件数（年次推移、義務その他）

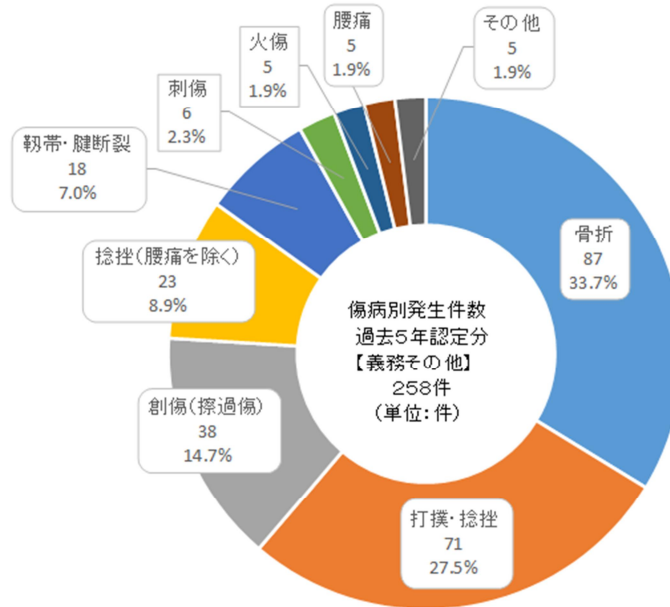


(3) 傷病別発生状況〔統計表 表 21、表 22〕

「骨折」が87件で最も多く、次に「打撲・挫傷」が71件となっている。いずれも過去5年の上位に連続して入っており、これら二つで全体の6割以上を占めている。

「骨折」は、体育の授業中や部活動の指導中などに多く発生しているほか、階段を踏み外してバランスを崩して転倒した事例も多い。

図 15 傷病別発生件数（過去5年認定分、義務その他）

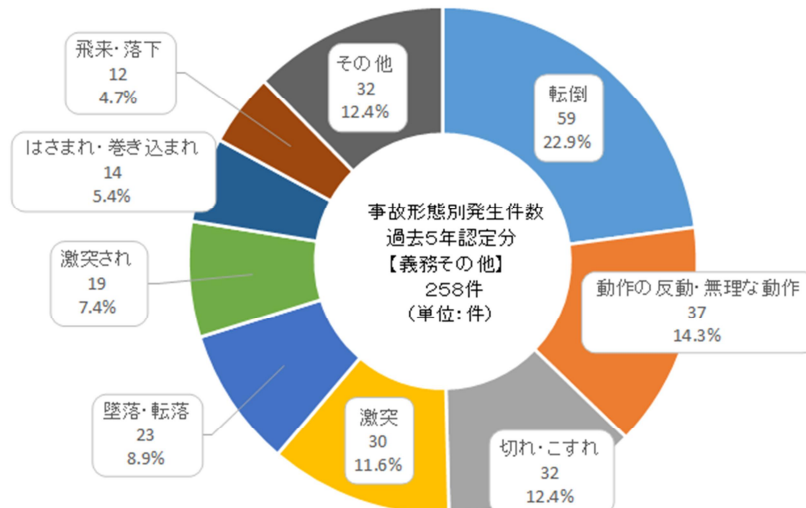


(4) 事故形態別発生状況〔統計表 表 23、表 24〕

「転倒」が59件で最も多く、次に「動作の反動・無理な動作」が37件となっており、いずれも過去5年の上位に連続して入っている。

「転倒」は校内移動中に急いで移動する際に多く発生しており、体育の授業中の発生も多い。「動作の反動・無理な動作」は部活動の指導中に多く発生している。

図 16 事故形態別発生件数（過去5年認定分、義務その他）



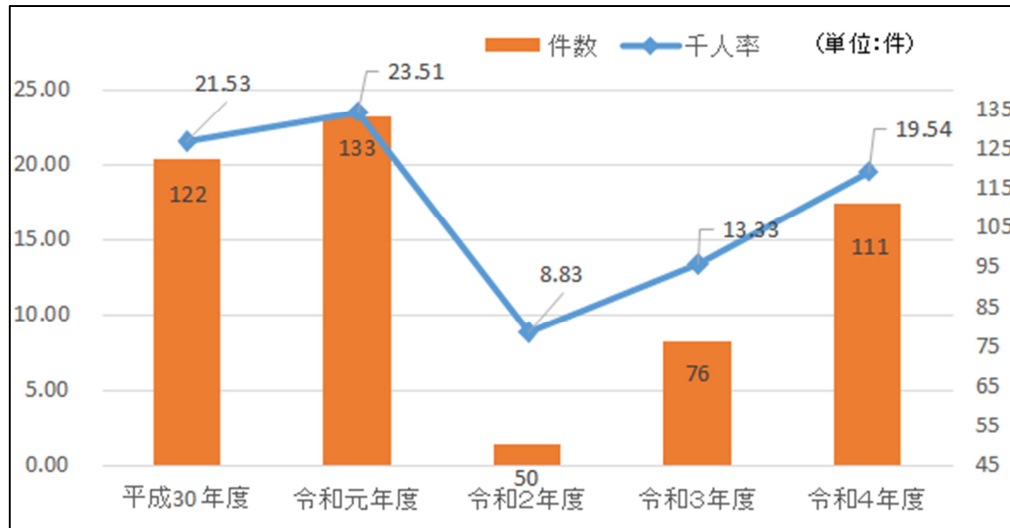
### 3 警察職員

#### (1) 過去 5 年の公務災害発生件数の推移〔統計表 表 3、表 4〕

令和 2 年度に大きく減少したが、令和 4 年度には 111 件と増加傾向にある。

千人率の推移においても同様の傾向であるが、最も低い令和 2 年度で 8.83 件、最も高い令和元年度では 23.51 件であり、全職種の中でも高い水準である。

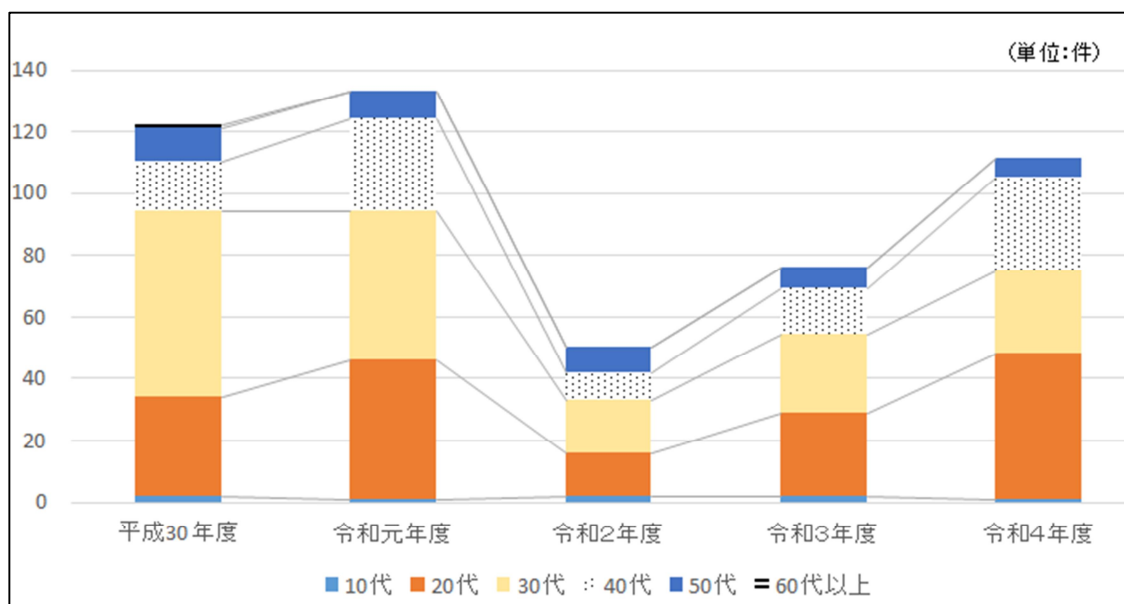
図 17 発生件数と千人率の推移（警察）



#### (2) 年代別発生状況〔統計表 表 25〕

令和 2 年度に 20 代、30 代で被災件数が大きく減少している。特に 30 代の減少幅が最も大きく、前年度の 3 分の 1 近くまで減少した。20 代は、令和 2 年度の減少後は増加が続き、減少前と同程度の件数に戻っている。

図 18 年代別発生件数（年次推移、警察）



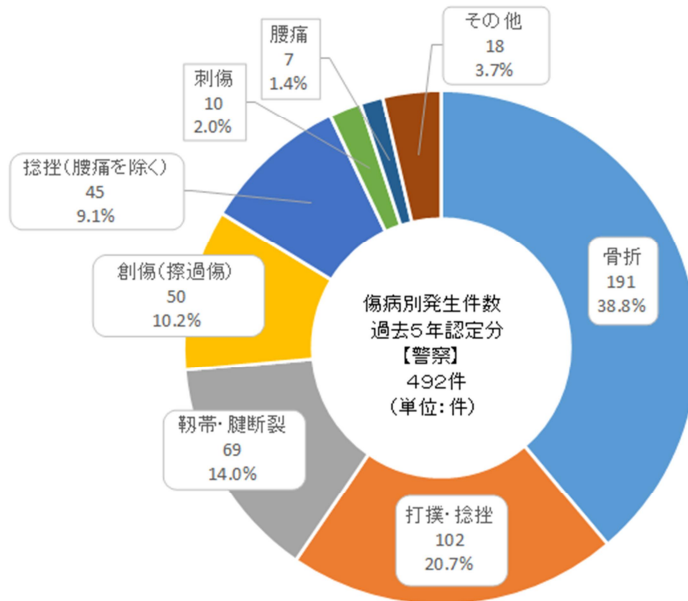
(3) 傷病別発生状況〔統計表 表7、表26、表27〕

「骨折」が191件で最も多く、次に「打撲・挫傷」が102件となっている。いずれも過去5年の上位に連続して入っており、これら二つで全体の6割を占めている。

「骨折」は、柔道や逮捕術等の訓練時に多く発生しているほか、警ら中に発生した事例も見られた。

また、「靭帯・腱断裂」の件数が、他の職種に比べて多く、全職種153件のうち69件が警察職員となっている。「靭帯・腱断裂」も、「骨折」と同じく柔道や逮捕術等の訓練中に多く発生している。

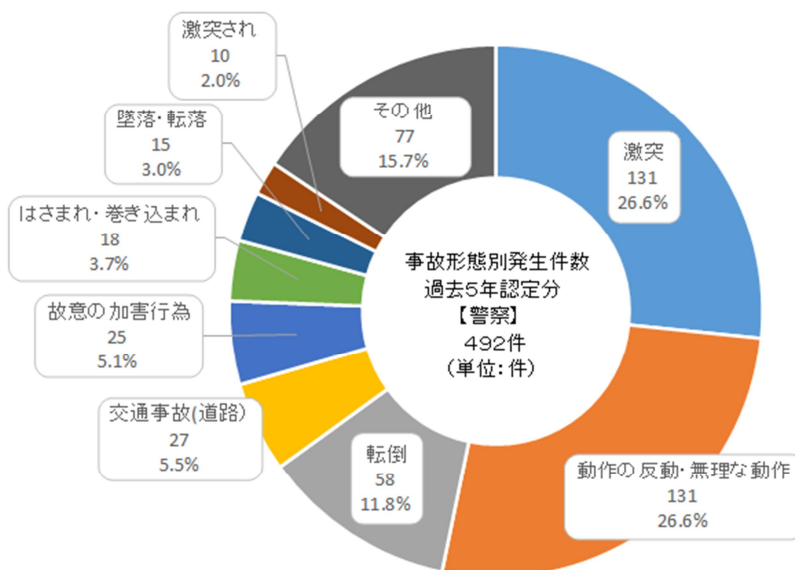
図19 傷病別発生件数（過去5年認定分、警察）



(4) 事故形態別発生状況〔統計表 表28、表29〕

「激突」と「動作の反動・無理な動作」が、どちらも131件となっている。いずれも過去5年の上位に連続して入っており、柔道や逮捕術等の訓練時に多く発生している。

図20 事故形態別発生件数（過去5年認定分、警察）

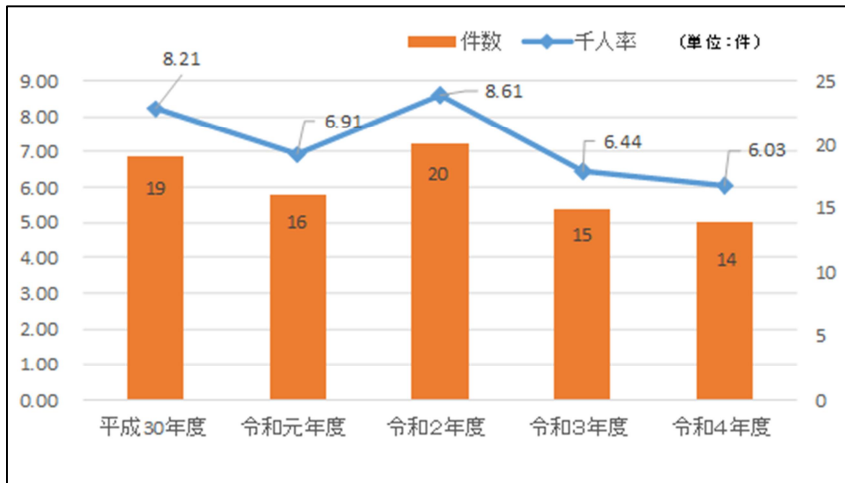


#### 4 消防職員

##### (1) 過去 5 年の公務災害発生件数の推移〔統計表 表 3、表 4〕

毎年増減はあるものの、全体の件数に目立った変化はない。令和 4 年度は過去 5 年で最も少なく、14 件であった。千人率の推移においても同様の傾向であり、令和 4 年度には 6.03 件となった。

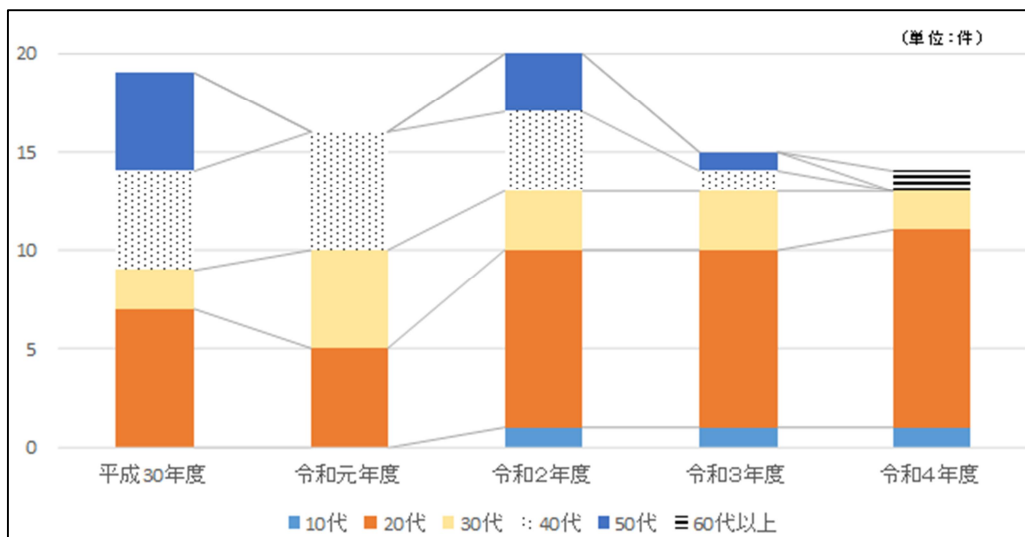
図 21 発生件数と千人率の推移（消防）



##### (2) 年代別発生状況〔統計表 表 30〕

全体に占める 20 代の割合が特に大きくなってきており、令和 4 年度は、7 割を超える状況となっている。

図 22 年代別発生件数（年次推移、消防）



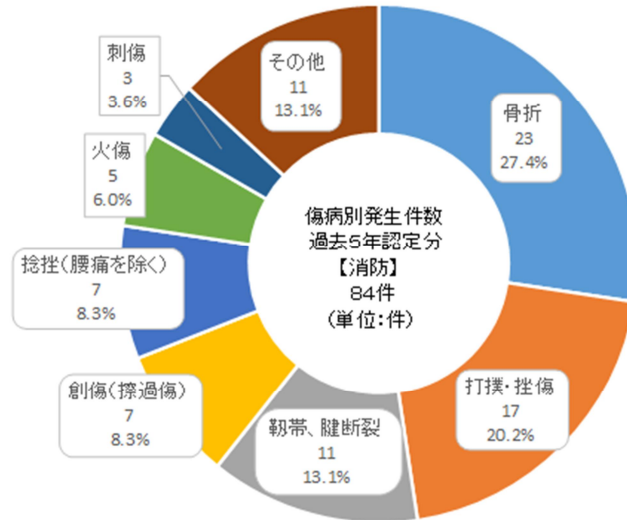


(3) 傷病別発生状況〔統計表 表 31、表 32〕

「骨折」が23件で最も多く、次に「打撲・挫傷」が17件となっている。表 32 を見ると、いずれも過去5年の上位に連続して入っており、そのほかに「靭帯、腱断裂」が多くなっている。

いずれも、消火活動や救急活動における作業や移動を行う際に多く発生している。

図 23 傷病別発生件数（過去5年認定分、消防）

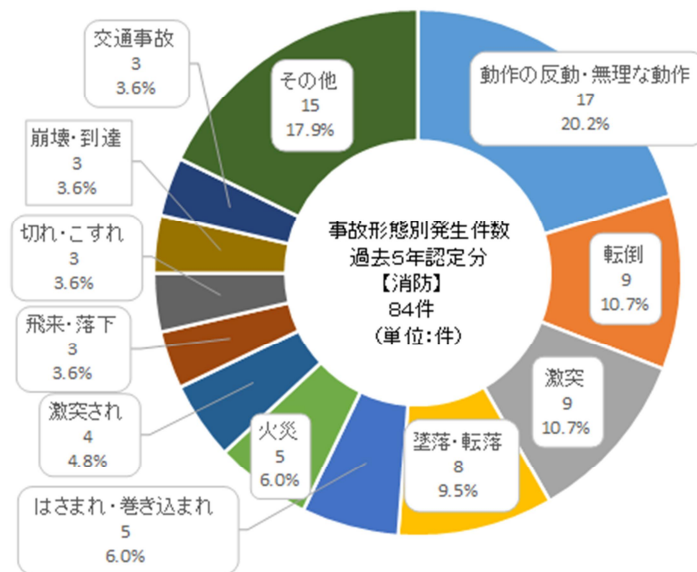


(4) 事故形態別発生状況〔統計表 表 33、表 34〕

「動作の反動・無理な動作」が17件で最も多く、次に「転倒」及び「激突」が共に9件となっている。

消火活動や救急活動時のほか、訓練中や消防学校での研修中における被災も多い。

図 24 事故形態別発生件数（過去5年認定分、消防）

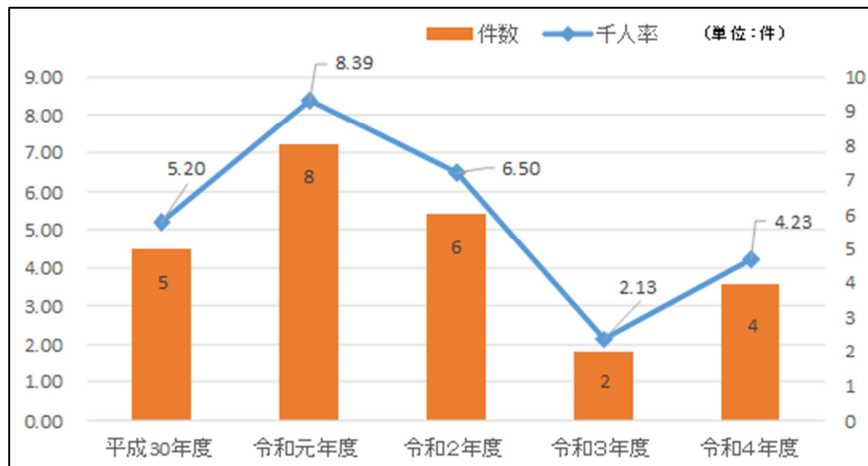


## 5 電気・ガス・水道事業職員

### (1) 過去 5 年の公務災害発生件数の推移〔統計表 表 3、表 4〕

多少の増減はあるものの、発生件数はほぼ横ばいである。発生件数が少なく、職員区分ごとの千人率で見ても、令和 3 年度及び令和 4 年度は全職種の中で最も低い数値となっている。

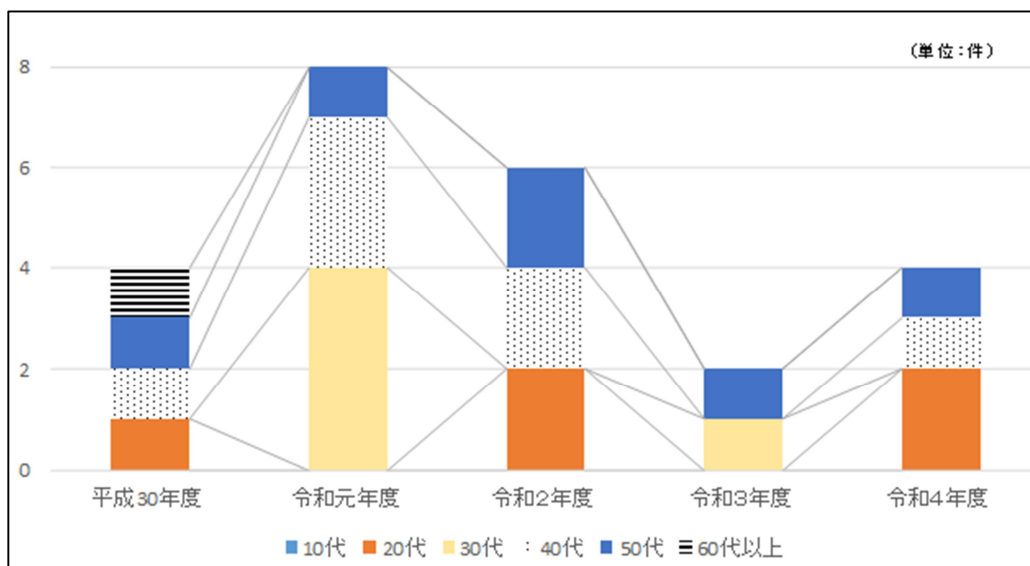
図 25 発生件数と千人率の推移（電気ガス水道）



### (2) 年代別発生状況〔統計表 表 35〕

いずれの年代も被災しており、50代は毎年被災が発生している。

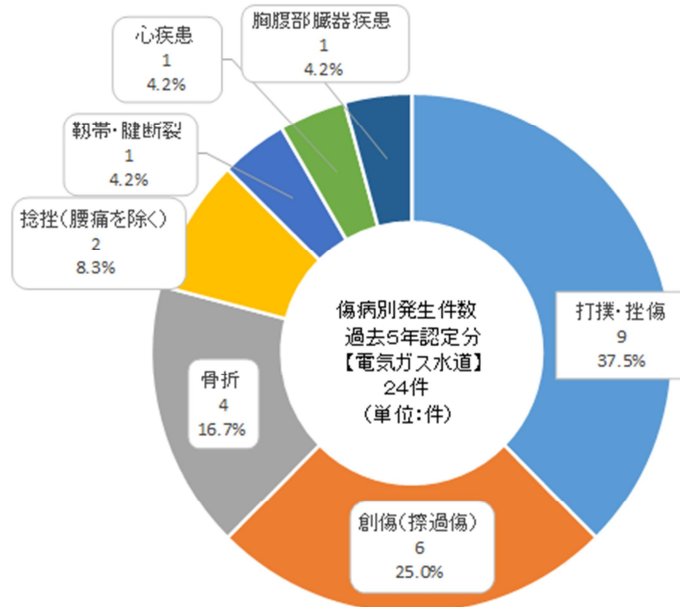
図 26 年代別発生件数（年次推移、電気ガス水道）



(3) 傷病別発生状況〔統計表 表 36、表 37〕

「打撲・挫傷」が9件で最も多く、次に、「創傷（擦過傷）」が6件、「骨折」が4件となっている。いずれも、浄水場施設内での作業等の際に発生している事例が多く見られた。

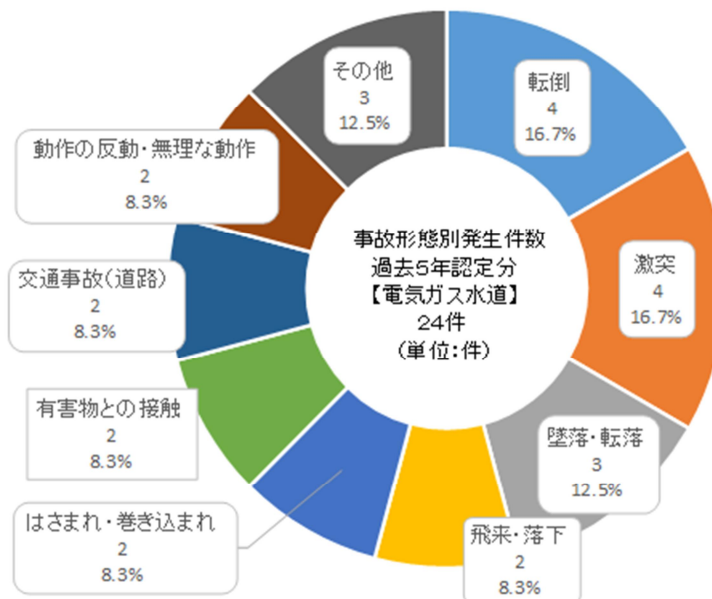
図 27 傷病別発生件数（過去5年認定分、電気ガス水道）



(4) 事故形態別発生状況〔統計表 表 38、表 39〕

「転倒」、「激突」が4件で最も多いが、そのほかの事故形態と件数を比べても大きな差はない。

図 28 事故形態別発生件数（過去5年認定分、電気ガス水道）

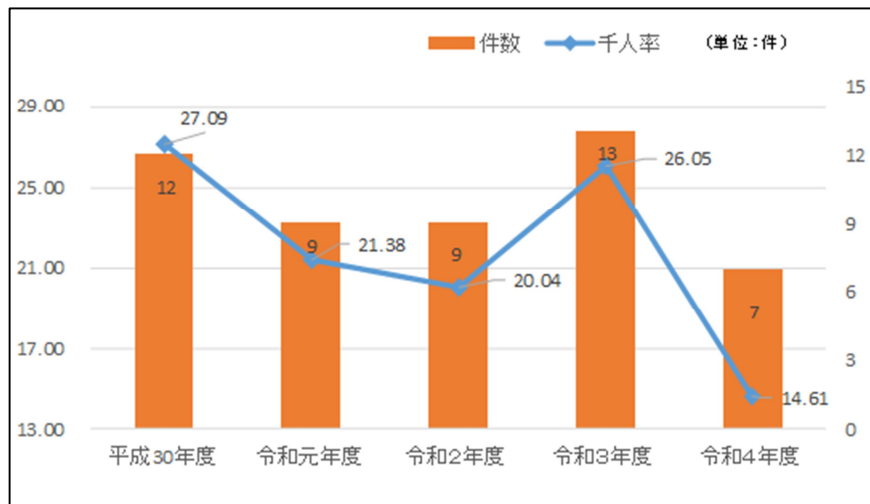


## 6 清掃事業職員

### (1) 過去 5 年の公務災害発生件数の推移〔統計表 表 3、表 4〕

発生件数で見ると、数は少なく大きな増減もないが、千人率で見ると、最も高い平成 30 年度で 27.09 件、最も低い令和 4 年度でも 14.61 件であり、全職種の中でも高い数値となっている。

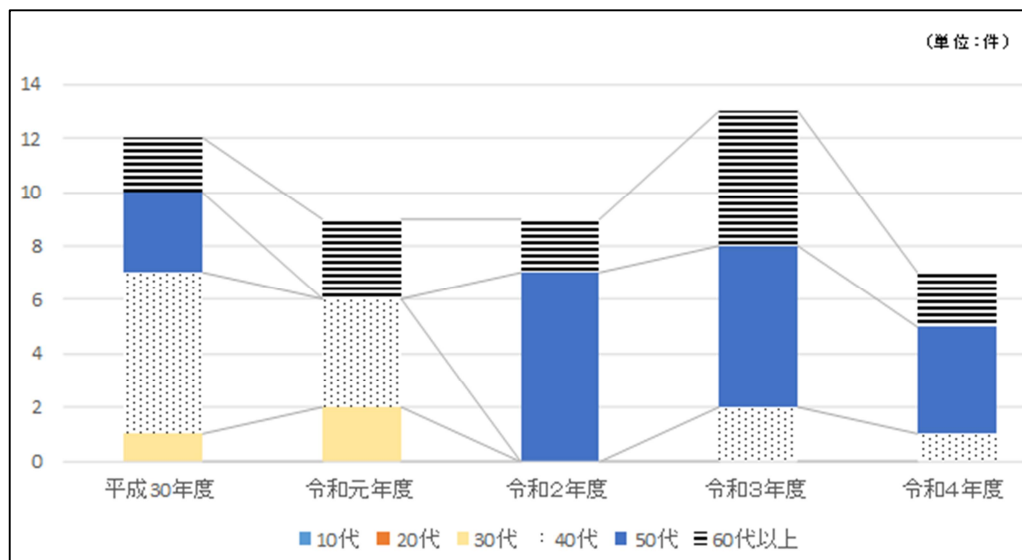
図 29 発生件数と千人率の推移（清掃）



### (2) 年代別発生状況〔統計表 表 40〕

30 代以上の年代が被災しており、毎年度被災しているのは 60 代である。

図 30 年代別発生件数（年次推移、清掃）

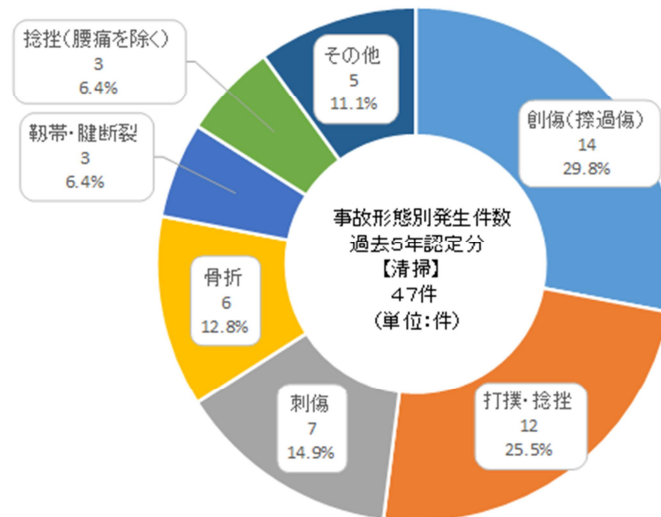


(3) 傷病別発生状況〔統計表 表 41、表 42〕

「創傷（擦過傷）」が14件で最も多く、次に「打撲・捻挫」が12件となっており、他職種で多い「骨折」は6件となっている。

ゴミの収集・分別作業中に多く発生しており、収集物を直接扱う際の被災が多いが、蜂に刺される事例も見られた。

図 31 傷病別発生件数（過去5年認定分、清掃）

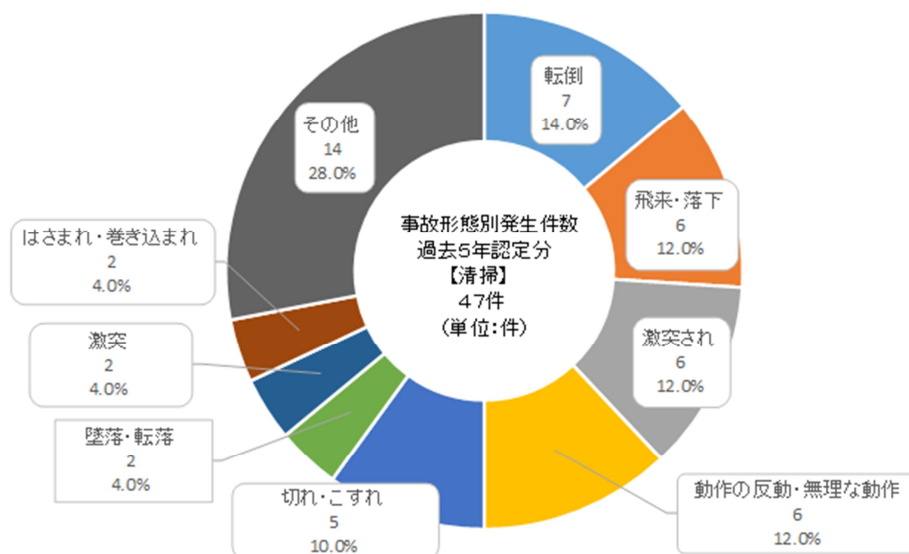


(4) 事故形態別発生状況〔統計表 表 43、表 44〕

「転倒」が最も多く7件であるが、他の要因も複数見られた。

ゴミの収集作業時に収集物を移動させる際に、バランスを崩しての転倒が比較的多く見られた。

図 32 事故形態別発生件数（過去5年認定分、清掃）



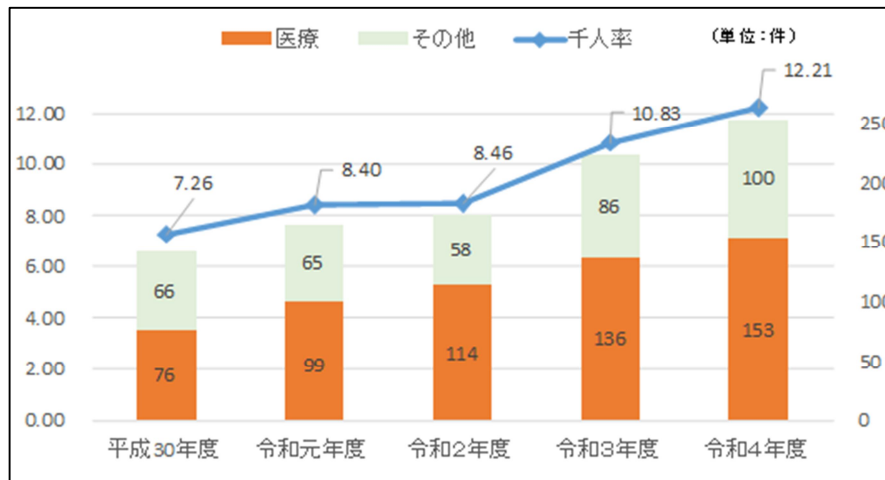
## 7 医療従事職員

### (1) 過去 5 年の公務災害発生件数の推移〔統計表 表 3、表 4〕

期間を通じて増加が続いている。

※千人率については、職種単独での算出ができないため、医療従事職員とその他の一般職員の合算で算出している。

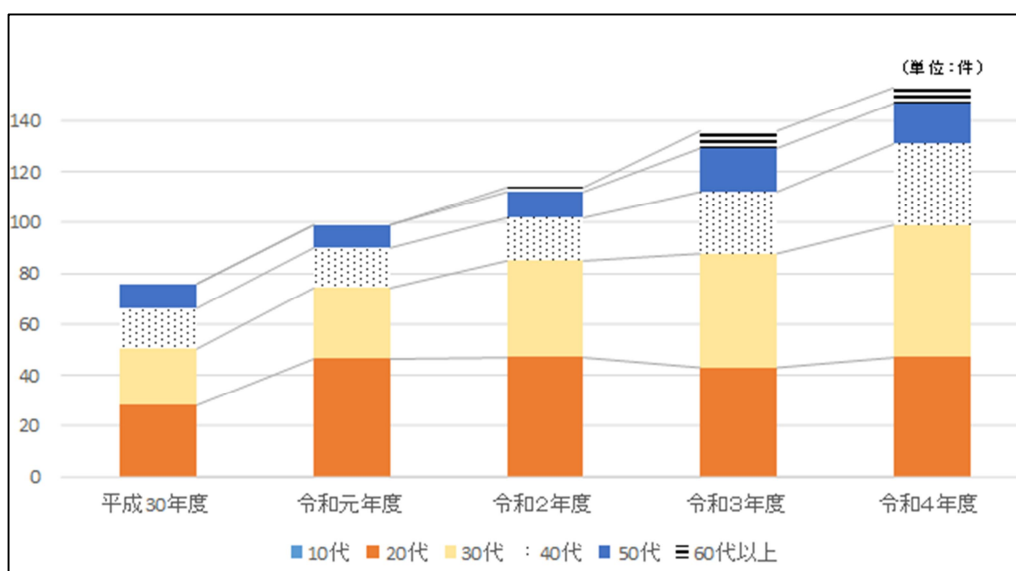
図 33 発生件数と千人率の推移（医療＋その他）



### (2) 年代別発生状況〔統計表 表 45〕

いずれの年代も増加傾向であるが、特に 30 代の増加が顕著である。令和 3 年度からは 40 代の被災も増加している。

図 34 年代別発生件数（年次推移、医療）

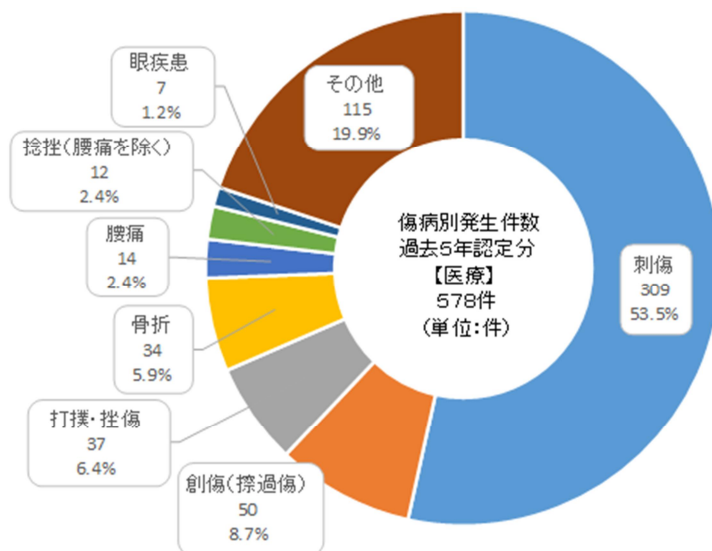


(3) 傷病別発生状況〔統計表 表 46、表 47〕

「刺傷」が309件で最も多く、次に「創傷（擦過傷）」が50件となっている。「刺傷」は過去5年の上位に連続して入っており、その他の傷病に比べ圧倒的に多く、全体の過半数を占めている。

「刺傷」は、注射針や手術中の縫合針による針刺しがほとんどで、この職種に特徴的なものである。

図 35 傷病別発生件数（過去5年認定分、医療）

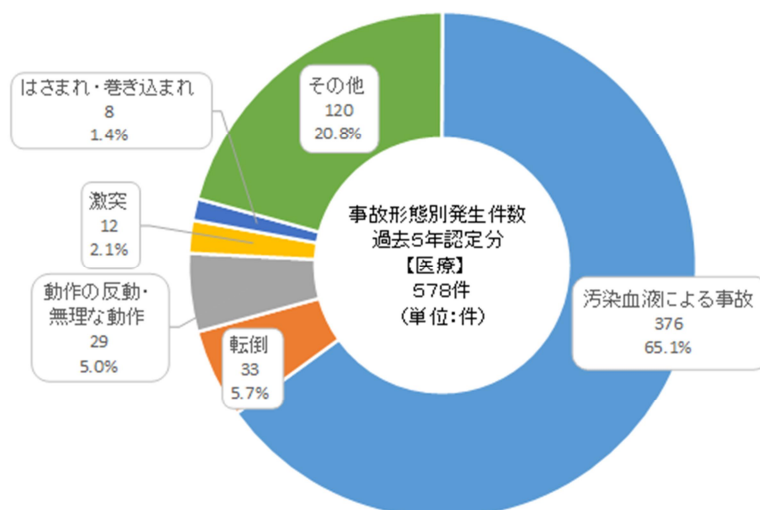


(4) 事故形態別発生状況〔統計表 表 48、表 49〕

「汚染血液による事故」が376件で最も多く、過去5年連続して1位となっている。

その約7割が、注射針や手術等の縫合針、血液ばく露に起因するものであり、この職種に特徴的なものである。

図 36 事故形態別発生件数（過去5年認定分、医療）



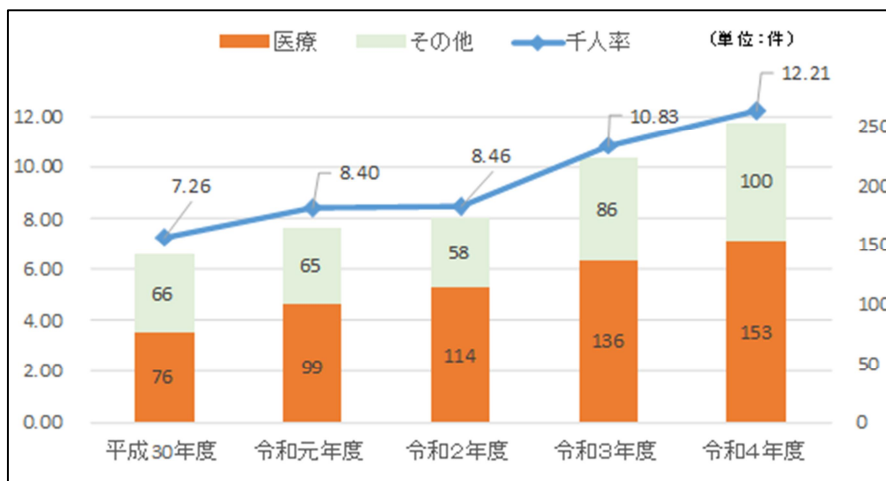
## 8 その他の一般職員

### (1) 過去5年の公務災害発生件数の推移〔統計表 表3、表4〕

令和3年度からは増加傾向にあり、他職種で減少が見られた令和2年度も、大きな減少は見られない。

※千人率については、職種単独での算出ができないため、医療従事職員とその他の一般職員の合算で算出している。

図 37 発生件数と千人率の推移（医療＋その他）（再掲）

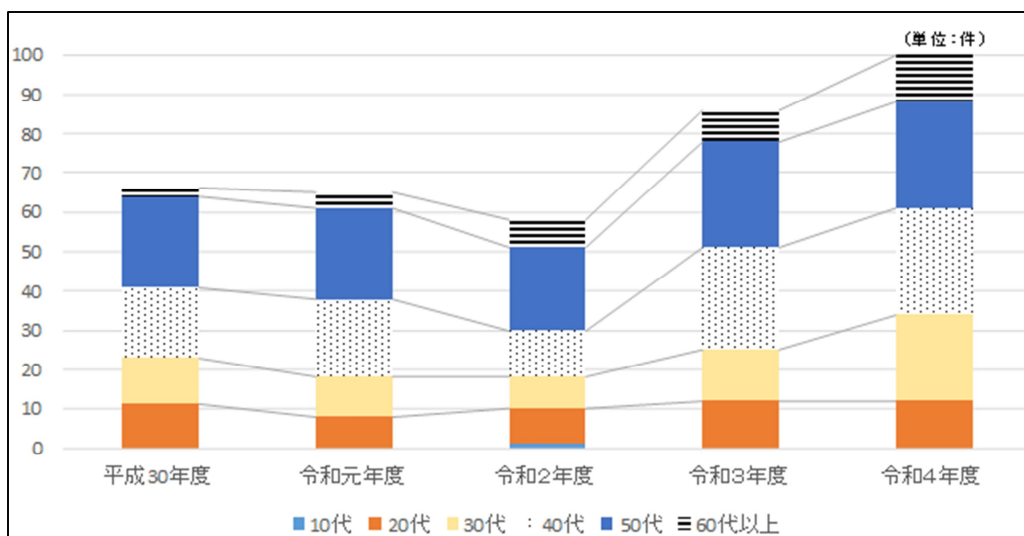


### (2) 年代別発生状況〔統計表 表50〕

全体的には増加傾向で、50代の被災が比較的多く発生している。

40代では令和2年度に件数が4割減少したものの、その後は増加してきている。また、60代の被災件数が徐々に増加している。

図 38 年代別発生件数（年次推移、その他）



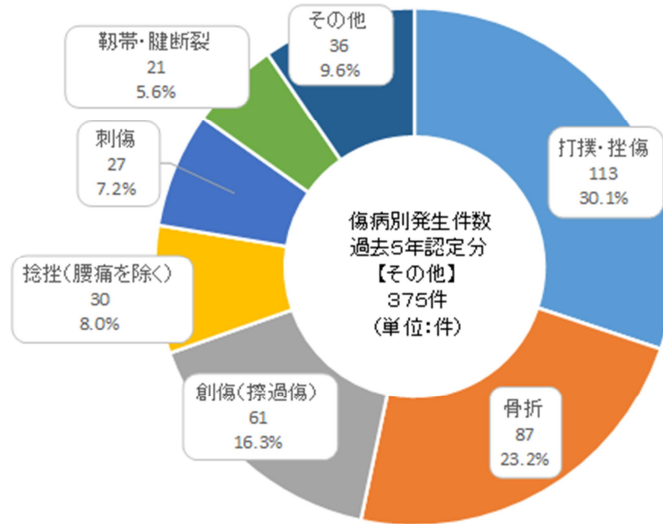


(3) 傷病別発生状況〔統計表 表 51、表 52〕

「打撲・挫傷」が113件で最も多く、次に「骨折」が87件、「創傷（擦過傷）」が61件と続く。いずれも過去5年の上位に連続して入っており、これら3項目で7割近くを占めている。

その他の一般職員は様々な職種で構成されているため、事例として特徴的なものは見られない。

図 39 傷病別発生件数（過去5年認定分、その他）



(4) 事故形態別発生状況〔統計表 表 53、表 54〕

「転倒」が73件で最も多く、次に「墜落・転落」が43件、「激突」が41件と続く。「転倒」は過去5年の上位に連続して入っている。

「転倒」は施設内部の移動時のほか、勤務場所と駐車場との移動の際にも多く発生していた。

図 40 事故形態別発生件数（過去5年認定分、その他）

